

新刊紹介

ブリット著「真理の道」

カトリック教育における豊富な経験をもつ著者、本学々長が現代知識人のために執筆したカトリック入門書で一九四七年米国で出版、好評を博した *Where is truth?* の翻訳。平易な文章の中に哲学的に、科学的に、歴史的に、あるいは社会的に現代の最新知識を縦横に駆使して真理への道を、人間の最高目的を説き、生命を与うる真理の本源、聖三位一体論から、地上における神秘体としての教会、真理の唯一の守護者としての唯一の聖なる普遍的使徒承伝の教会、神的生命の源泉としての秘蹟等々、カトリック教理の本質を説いてあますところがない。論旨極めて明快、カトリックに対する疑問をもつ人々、求道者へのこよなき手引書であり、宗教教育にたずさわる人々にとつて最良の参考書であり、巻末には各章ごとに問題と研究課題とが提示され、カトリック用語解説も附されている。翻訳に若干訂正すべき所のあることは惜しい。

(目黒書店、昭和二十五年九月刊、B 6 三七七頁)

松本正夫著「世紀への展望」

永遠哲学の周辺に立ちつ

ライプニッツが永遠哲学と呼んだスコラ哲学の研究に専心し

ておられる本学松本講師が、終戦後、諸誌に発表された哲学的評論十二篇を収録したものである。中世哲学として現代人に忘れられがちなスコラ哲学こそ、時代の秩序を超え永遠の秩序を追求する哲学であるとの前提のもとに単なるスコラ哲学の紹介にとどまらず、ヒューマニズム、民主主義、マルキシズム、近代精神等、現代思潮との対決において、その現代的意義・任務を論じた本書が世紀的反省と新視野の開拓が要望されている現代思想界に与える示唆は大きい。

(岩波書店、昭和二十六年十一月刊、B 6 一六四頁)

シュルツェ著「ベルジャエフの哲学」 霜山徳爾訳

ロシアの実存主義

ロシアの伝統的精神の具現者であり、勝れた歴史哲学者であり、東欧と西欧思想との掛橋であるベルジャエフの邦訳も既に数篇なされているが、なお我が国において彼の哲学は余り知られていない。本学霜山講師がここに訳出されたドイツのイエズス会士シュルツェ師の此の書はベルジャエフ哲学の全貌を客観的に示すとともに、鋭い批判をなし、西欧において最も権威ある名著として高く評価せられているもので、ひとりベルジャエフ理論の最良の案内書であるばかりでなく、ひろくロシア精神史、正教神学とカトリシズムとに関心をもつ人々必読の書である。

(理想社、昭和二十六年十二月刊、B 6 二二三頁)

海老沢有道著「現代日本宗教の史的性格」

従来日本宗教史の殆どが、いわゆる日本精神史であるか宗教界内部の事件の羅列にすぎなかつたのに対し、本書は原始的復古神道を天皇制の精神的支柱として君臨せしめた幕末明治維新、和魂洋才主義の精神的鎖国、富国強兵殖産興業を標語とする資本主義の育成政策、唯物的実利主義教育等によつて外面は宗教的に見えながら人格的宗教的教養と訓練とを欠かしめられた現代日本にあつて、宗教は健全な発展をなし得ず、資本主義社会の養展、絶対主義の成立過程の中に支配権により教化機関化せられてしまい、仏教界のみならずかつては新時代の指導的地位を占めたキリスト教ですらその例に洩れなかつた事情を明らかにし現代日本宗教の負う史的性格を分析している。現代日本宗教史として異色ある学的労作であるとともに日本の近代化に当つて欧米二千年の文化の精神的基礎を敢て無視した現代日本の欠陥を指摘し、かつ宗教界が自ら置かれた歴史的社会的地位を正しく認識し自らの負う史的制約性を打破すべきであることを論じた警世の書でもある。

(基督教文庫、ナツメ社、昭和二十七年一月刊 B 四〇)

一一八頁)

窪田幸夫著「吉利支丹文学ノート」

最近キリシタン史研究の進歩は著しいものがあるが、なお依

然として外面的事象に注意が向けられているようである。が、キリシタンは宗教であり、内面的考察なくしては、その過半の意義を失ふと云うべきであらう。キリシタン文学においても書誌学的に取扱われ、あるいは南蠻趣味的に隨筆的に紹介せられても、その文学のもつ真の意義を追求したものが無い。本書はそれら無視せられ軽んぜられてきた諸点を内面的理解をもつて聖書・護教・祈禱・觀想・殉教・書簡文学などに分つて考察し、日本文学史上にその特殊な地位を要求している。たゞ小冊子のため文例が充分でないうらみがある。著者窪田幸夫は本学海老沢教授が第三者的に用いられた筆名。

(基督教文庫、ナツメ社、昭和二十七年二月刊、B 四〇)

一二六頁)

バリー著「聖マгдаレナ・ソフィア」

本学翻譯クラブ「聖マгдаレナ・ソフィア」
フランス大革命の嵐の中に成長し、一八〇〇年十一月、イエズスの聖心への信仰に燃え、女子教育を通して世を聖化しようとする三名の同志と共に聖心会を創立した聖マгдаレナ・ソフィア・バラの言行と聖心会を紹介したアグネス・バリーの著を聖心会創立百五十年に当り、記念出版として訳出したもの。大革命以来百五十年、再び混迷せる現代社会にあつて聖心会の精神・目的・教育理想の実現こそ最も望ましいものであり、今や全世界百七十五の修院によつて行なわれている教育事業に寄せる人々の期待は大きい。本学関係者、卒業生、父兄のみなら

ず、救霊と教育に関心をもつ人々必読の書である。

(聖心女子大学、昭和二十五年十一月刊、B 6 九四頁)

学術懇話会

昭和二十六年七月二日

中国古代の書籍について

キリシタンローマ字

昭和二十六年十二月九日

公立学校における宗教々育

—特にアメリカにおける—

教育統計に於ける二三の問題

昭和二十七年一月二十一日

Paper Chromatography

児童画を通して見たる

精神発達の過程

昭和二十七年二月十八日

最近の運動界について

源氏物語の成立とその特質

執筆者紹介

海老沢有道 日本史学、図書館学教授
岩下 龜代 特別研究生、教育学専攻

霜山 徳爾 心理学講師

近藤 次郎 数学教授

中津井英子 公衆衛生学、化学専任講師

小林智賀平 言語学講師

編輯後記

* 本学創立以来の懸案であつた論叢が漸く熾熱して、ここに第一集を送り出すに至つたことは御同慶に堪えない。創刊のためと編集の責を負うた私の健康上の理由のため準備不足であつたにも拘らず、各分野に互リユニークな雄篇を寄せられた諸先生に感謝する。

* 既に次号には諸教授の力作が予約されており、編集主任にも代つて戴く予定であるから必らずや立派なものができ上ることであろう。なお今後は年二回(九月、二月)刊行の豫定である。

(A・E)

編集委員

海老沢 有道

広瀬 栄子

岩下新太郎

進藤 とく

谷 宏

専任講師 鈴 井 寿 美
教 授 谷 宏

助 教 授 岡 宏 子
専任講師 中津井英子

教 授 海老沢有道
教 授 原田 淑 人

専任講師 岩下新太郎
教 授 近藤 次 郎